

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	平成30年度 子ども読書活動推進委員会		
開催日時	平成30年6月7日（木）15:30～16:45		
開催場所	安土町総合支所 第2委員会室		
出席者 委員長◎ 副委員長○	<p>出席者 17名</p> <p><推進委員></p> <p>◎委員長 市島 恵子（近江八幡市図書館協議会委員）</p> <p>○副委員長 工藤 雅子（近江八幡おはなし研究会）</p> <p>委員 井手吉ひろみ（安土おはなし童話クラブ）</p> <p>委員 中村 久美子（八幡幼稚園）→代理：福地順子園長</p> <p>委員 万野 英夫（子ども支援課）</p> <p>委員 辻 明子（安土小学校）</p> <p>委員 山下 晶子（八幡高等学校）</p> <p><関係課></p> <p>楠本 茂樹（学校教育課長）→代理：善住 晶子課長補佐</p> <p>奥村 恭代（近江八幡図書館長）</p> <p>小崎 美香、近藤かおる、浦谷 美豊、前田 弘美（学校教育課）</p> <p>伊崎佐知子（教育総務課）</p> <p>但田 祐子（近江八幡図書館）</p> <p><事務局></p> <p>奈良 俊哉（生涯学習課長）、山岡 慶子（生涯学習課）</p>		
欠席者	<p>委員 東 奈那（安土中学校）</p> <p>関係課 小林 一代（教育部長）、深井 千恵（幼児課）</p>		
次回開催予定	平成30年9月		
問い合わせ先	<p>所 属 名：近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課</p> <p>担当者名：山岡 慶子</p> <p>電話番号：0748-36-5533</p> <p>E-mail：045000@city.omihachiman.lg.jp</p>		
会議記録	<p>発言記録</p> <p>・ 要約</p>	<p>要約した理由</p>	<p>会議内容を明確にするため。</p>

事務局	近江八幡市子ども読書活動推進委員会の開催宣言 近江八幡市子ども読書活動推進委員の委嘱・任命（２年間）
課長	《担当課長のあいさつ》
各自	出席者自己紹介 推進委員 7 名（内 1 名代理）、関係課長 3 名・担当者 7 名
事務局	本会議の成立確認 近江八幡市子ども読書活動推進委員会設置要綱第 6 条第 2 項の規定により、本日出席者は 17 名で、今年度会議構成者は 19 名で半数以上の出席で成立。 近江八幡市会議の公開に関する取扱要綱により、本会議は公開され、会議終了後近江八幡市HPに議事が掲載されることの下承。 会議内容の録音、会議の様子を写真撮影の下承。 当会設置要綱第 4 条第 1 項・2 項の規定により当委員会の委員長・副委員長の選出 参加者より事務局一任となり、委員長・副委員長を選出
委員長	《委員長のあいさつ》
事務局	議事開始。当会設置要綱第 6 条第 1 項の規定により、議事進行は、委員長に委ねる。
委員長	本日の次第確認。 1. 各指標の進捗状況について事務局へ報告の指示
事務局	本日準備した資料について ①「近江八幡市子ども読書活動推進計画」指標と進捗状況の一覧 ② ①にかかわって、平成 27 年度、28 年度、29 年度の成果と課題・平成 30 年度の取組 ③平成 29 年度子どもの読書活動に関する調査結果（近江八幡市立小中学校） ④平成 20～29 年の子どもの読書活動に関する調査の 10 年間の推移（滋賀県の経年変化） ⑤図書館関連の資料 それぞれの担当課からの説明内容について ・平成 30 年度の値が今回の計画の指標目標となる。 ・平成 29 年度までの推進計画の成果と課題、平成 30 年度の取組について説明する。 ・今年度は本推進計画の最終年度となり、この計画推進の総括をしながら、次期 5 年間に向けた計画を策定年度となっている。 ・各担当課からそれぞれの説明をしていく。 《平成 29 年度の進捗状況と推進計画の成果と課題、平成 30 年度の取組について、委員長の指名により次の①～⑦について各担当課から説明》

	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校司書の配置 (学校教育課) ② 校園所における読書活動 (学校教育課) ③ 子どもの読書活動 (生涯学習課) ④ 学校図書館活用支援事業 (生涯学習課) ⑤ 学校図書館図書標準 (教育総務課) ⑥ 校園所と図書館の連携 (図書館) ⑦ 図書館の貸出冊数および蔵書冊数 (図書館)
学校教育課	<p>①学校司書の配置について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度は市内に学校図書館支援員1人を配置。平成28年度には市内に学校司書を2人配置。昨年度より、2年連続で本日参加している3人の学校司書が配置され、市内の小中学校を分担している。 ・一昨年度より学校図書館システムマニュアル・図書館運営マニュアルの運営支援を行っている。 ・学校図書館の環境整備も進めてもらっている。 ・学校司書が学校に行くことにより、学校と図書、関係課、市立図書館との連携がよりはかれ、本そのものの質問や連携についての相談もしやすくなったと考えられる。 ・学校司書は3人のため、市内16の小中学校を推進校と支援校にわけ、推進校には週2回、支援校には3週間に1回の連携をしている。推進校と支援校での違いはあるが、学校図書館の環境整備に尽力してもらっている。 ・今年度も学校図書館システムマニュアル・図書館運営マニュアルの運営支援を継続し、新しい取組みとして、夏休みに図書館教育にかわる教員研修、教員の啓発、図書をいかした授業をより広く周知するため、夏休みの校内研修で実施していくこととしている。 <p>②校園所における読書活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度から各校園所における読書活動については、様々な読書活動を実施し継続しており、現在、市立の小中学校すべてで実施している。 ・平成30年度の目標をかかげ、より読書の推進に努めていきたいと考えている。
生涯学習課	<p>③子どもの読書活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、小学校4・5・6年、中学校1・2・3年を対象に5月の読書冊数を6月上旬に調査している。 ・市内全体の0冊だった人数は4年生25人、5年生24人、6年生77人で、中学校は1年生50人、2年生141人、3年生137人であった。 ・1ヶ月に1冊以上本を読んだ子どもの割合は小学校94.5%、中学校83.2%、高等学校76.4%となっている。今期の計画の目標指標は、小学校100%、中学校90%、高等学校65%である。 ・県の統計で利用している不読率で見ると、小学生は5.5%で平成28年度より少しポイントが高くなった。その中で不読率0%の学校が33校あり、市立図書館から離れた地域の小学校も含まれている。中学校は16.8%で、平成28年度より低くなった。高等学校は23.6%となり、平成28年度より高くなった。 ・平均読書冊数は小学校4.5冊、中学校2.5冊、高等学校1.8冊だった。市としての変化は横ばいであるが、県平均に比べると少ない。 ・4月23日「子ども読書の日」に関する取組については、平成29年度末時点での今

<p>教育総務課</p>	<p>年度の予定は、33の取組予定が報告された。一昨年度は図書館のみの取組であった。 ・県の10年間の結果資料も参考として添付してある。</p> <p>④学校図書館活用支援事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は県立図書館から3名3日の支援を受け、安土小学校で6回の作業計画で学校図書館のリニューアルを実施した。学校司書の果たした役割が大きかった。 ・昨年度、県からリニューアルマニュアルが出され、今年度は研修会も実施されるため、市としてはこれまでのような形での実施はしない。 <p>⑤学校図書館図書標準について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省が定めている学校図書館図書標準に達するよう進めている。 ・小学校では標準に達している学校は12校中9校、中学校では4中学校中1校と前々年度から少しずつ減っている状態である。 ・平成27年度から学校支援員を市内に1人、平成28年度には学校司書として市内に2人、平成29年度には3人配置された。そのことにより、学校図書館の整備にも力を入れることができ、内容的にも古くなった本の廃棄をしていく機会が増えたためと考えられる。古い本がいくら並んでいても読まれないのでは意味が無いと思われる。 ・昨年度は安土小学校で実施したが、リニューアルをした学校では、廃棄をきちんとしていったこともあり、それらを含めて、図書標準に達している学校が減っている。 ・限られた市の予算だが、各校に本の購入費にあてている。特に図書標準100%に達していない学校を中心に予算を配分している。一時的に標準に達していないことも出てくるが、図書館の本の新陳代謝がよくなっていると考えていただきたい。
<p>図書館</p>	<p>⑥校園所と図書館の連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館と校・園・所が、次の3つの活動のうち1つでも実施していれば図書館と連携しているとしている。「園や学校のカードで団体貸出をしているか」「学校や学級で図書館へ来館があるか」「図書館から学校園へブックトークなどで訪問をしているか」 ・園所では80%、小学校100%、中学校80%、高等学校75%であった。このうち団体貸し出しについて、先生個人のカードでの貸し出しは反映されないため、実質的にはもう少し高くなるかもしれない。 ・連携ができていない学校は、市内の私立中学校・高等学校であるが、私立の学校ということや、学校図書館の司書が充実しているということで、こちらから積極的に連携をしていないのが現状である。 ・園所については計画策定時（平成24年度）から見ると徐々に連携率が高まってきているが目標値100%にはまだ届いていない。また、連携の内訳も年度により内容が変わっているというのが現状である。 <p>⑦図書館の貸出冊数および蔵書冊数について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館での年間貸出冊数については、団体貸し出し数を含む全児童書冊数のことである。 ・平成29年度については227,726冊となり、目標値を大きく超え指標を達成した。これは館内でのコーナー展示の取組を強化したことやブックトークのはたらきかけに加え、昨年度は近江八幡図書館開館20周年記念事業を盛大に行い、その中で子ども向け、親子向けのワークショップや絵本の原画展を多数実施し、多くの方に参加しても

	<p>らうことができ、それが図書館利用につながったからだと考える。また、昨年度は新たに武佐地域親子への読書支援に重点的に取り組んだ事が成果として現れたと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武佐地域は図書館からも遠隔地にあり、市内の平均に比べ図書館利用がかなり低いという地域柄で、小学校のブックトークでも聞く姿勢がなかなかできないということを図書館の長年の課題としてきた。昨年度は武佐こども園を中心に武佐コミュニティセンターや八幡東子どもセンターで、定期的に図書館から出向いたおはなし会や本の貸し出しや図書館に来てもらう取組を通して幼いうちから本に親しみ、楽しみながら読書習慣を身につけることができるように保護者も含めた取組を行ってきた。その結果、武佐地域の乳幼児～6歳の貸し出し冊数が前年度の約5倍、登録人数が3.7倍となっている。 ・児童書の蔵書冊数は、予算に左右される面が大きく平成24年度から10万冊台で推移しており、目標達成が難しいのが現状だが、ブックトークや館内展示を通して今ある蔵書を有効活用しながらより魅力的に紹介することで利用促進、貸し出し増加を図ってきたい。 ・今年度も、これまでの武佐地域支援をさらに進めていきたい。計画的・継続的に読み聞かせを行うことにより小学校に上がるまでに子どもたちの読書習慣や聞く力を育てることを目指して中長期的な取組として考えていきたい。 ・20周年事業からの展開として市民ボランティアのみなさんとのコラボレートを考えている。楽しい親子向けの企画などをたくさん考えている。第1弾として夏休みには「ぬいぐるみのお泊り会」を予定している。初めての試みで、子どもさんのお気に入りのぬいぐるみを預かり、図書館でお泊りをしてもらう、その中でぬいぐるみにおはなし会に参加してもらう、図書館の仕事を体験してもらうところを写真に撮影しお迎えに来た子どもさんにその写真アルバムをプレゼントする企画。子どもの好きなぬいぐるみが絵本を読んだり図書館で仕事をする姿を見たり、普段見ることのない図書館の夜の顔を知ってもらうことで、興味につなげてもらえると思う。チラシや広報で案内予定。 ・こうした取組を通して子どものよりよい読書環境の充実に向け取り組んでいきたい。
委員長	<p>平成29年度の報告と、平成30年度に向けてのそれぞれの取組についての説明で、今年度の方向性は伝わったと思われる。</p> <p>協議および意見交流のため各課からの取組について、質問や意見の時間とする。</p> <p>《質疑応答・意見交流》</p>
委員	<p>学校教育課における学校司書の配置や、校園所における読書活動について質問や意見を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育課の報告で平成28年度、29年度は全小中学校で朝読書を実施とあるが、最終年度も同じように取り組むのか。市内の小学校で読書ボランティアをされている方が今年度は必要ないと言われた。その理由は英語が入るため朝読書は英語の時間として、地域のボランティアの方が英語をしてくださるからということ聞いた。それは少しもったいないと思う。そういった情報など学校司書として何か聞いている事はないか。
司書	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の最後にボランティア（読み聞かせボランティアと図書室整備ボランティア）と先生と学校司書が参加した会議の中で、朝読書になっていた時間に「英語」を入れる

	<p>ため、その分読み聞かせは減ることとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これは一部の小学校だけではないのではないかなと思っている。 ・5, 6年生が読み聞かせや朝読書ではなく「英語」に変わっている学校が、他にもある。英語が教科の学習の時間としてどのようにカウントされているのかわからないが、本を読んでいた時間が「英語」にかわっている。特に5, 6年生は読まなくなってくる学年なのでどうか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・読まなくなってくる学年なので、なおさら読み聞かせなどを実施し楽しいお話があることを伝えてほしいと思う。2020年度に向けて先生方は英語はやっていかなければならない時期なので、どういう形で英語を実施していかれるのかわからないが。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そのあたりの情報をとらえて、せっかく培われてきた読書時間なので残念なことにならないようにしたい。 ・朝読書という形で近江八幡市ではせっかく定着していたのに、それが高学年になって削られていくというのは、子どもたちの様子をみていると、高学年になるにしたがって読書離れになるので、どうかと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい子どもであれば、親が読んでくれるという時間を持つと思うが、高学年になると5, 6年生の子どもと家族で1冊の本を共有するという事はなかなか難しい。 ・継続される事を祈りたい。
学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校に外国語活動・外国語が入ってきている中で、モジュール的に時間を設定しているため、朝読書の時間を一部英語活動にしているところもあるようだ。 ・読書というものも小中学校では大切に思われており、よく、机の横にカバン（読書バック）を置いておき、授業でドリルやワークが早く終わったときに、席からはなれずに早く終わった子から読書ができるよう、さっと手にして読書に親しむという取組を小学校では見かける。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そういう場面に私も出会ったことはある。ただ、いつもどうかかなと思うことがある。 ・算数の計算であったり、漢字の書き取りであったり、手早くできる子どもは、いつもカバンから本を出して読むという習慣がどんどん積み重ねられていくが、ずっと見ていると、手早くできない子どもはいつまでたっても自らカバンの中に手を入れて本をとることが難しい状況にあることを見させてもらっている。 ・これから考えていけないといけないのは、普段から本になかなか手が届きにくいという子どもを対象にどの子もまんべんなく本を身近に感じられるような環境を作っていくことが大事だということである。 ・そのためにも朝読書であったり、帰りのホームルームの時間であったり、わずかな時間を使い、隙間の時間を読書に当ててもらえる現場であってほしいと思っている。
館長	<ul style="list-style-type: none"> ・こういう読書活動で、学校司書の配置の仕方に推進校や支援校があると思うが、その中で図書館を整備されていろいろな活動をし、利用者数や貸し出し冊数なども1つの指標として出てくると、学校司書の勤務日数との関係などが明確になると、やはり人を増やしていかないといけないというところにつながっていくのかと思われる。 ・「生きる力」育み委員会で、その資料を見せてもらったときに、学校司書がいるところ

	<p>は、貸出が増えているのだなと思った記憶があるため、やはり数値もつけていった方がよいのかなと思った。</p>
<p>学校教育課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続きそのあたりも数値として集計していこうと思っている。また、結果を示せるようにしていく。
<p>委員長</p>	<p>質問は以上のため、次の協議事項にすすむ。</p> <p>次期の子ども読書活動推進計画策定に向けて事務局（生涯学習課）より提案</p>
<p>生涯学習課</p>	<p>《子ども読書活動推進計画策定に向けて今年度の流れ等について説明》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行の計画の総括をしながら、来年度から5年間の次期計画を策定していく。 ・これまでの取組の総括をする一つの方法として、子どもたちの読書活動の実態調査をする必要があると考える。 ・担当課でアンケート内容は検討したが、委員の意見も参考にしながら、内容を確定していきたいと考えている。 ・アンケートは6月中に実施し、7月中旬にアンケートを業者に渡し、集計作業に入る。 ・結果が出た後9月下旬にそれを元に考察、計画策定に向けた作業を始める。 ・アンケート集計が出来次第、委員には送付する。 ・次期計画策定のため、例年2回のこの会議を3回実施します。平成31年3月に完成し、4月に関係各所に配布、実践開始の予定である。 ・国の第4次の計画を基に近江八幡市の現状を踏まえ考えていかなければならない。 ・子どもたちの学びのスタイルも変わっていき、地域との協働、家庭教育とのかかわりなど、様々な角度から見ていく必要があると考える。 ・就学前～小学校 小学校～中学校 中学校～高等学校等への接続も考えていく必要がある。 ・スマートフォンやパソコン、タブレットでみる電子書籍の扱いについても考えていかなければならないのかと思われる。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局からの説明について、全体的な質問や意見の収集をする。 <p>《質疑応答》</p> <p>(アンケート実施期日についての質疑応答)</p>
<p>事務局</p>	<p>《アンケート内容の検討について説明》</p> <p>(グループ作業)</p>
<p>委員長</p>	<p>各グループで出た主な意見の確認をする。</p> <p>議事終了のことばと謝辞を述べる。</p>
<p>事務局</p>	<p>議長の解任と謝辞</p>

副委員長	第2回子ども読書活動推進委員会は、アンケート集計期間を考慮し、9月後半に実施する予定。 閉会のあいさつ
------	--